

平和について考えてみよう!

第2次世界大戦(1939-1945)が終結して70年目の夏がやってきました。1945年8月、日本はポツダム宣言を受諾して敗戦を認め、1931年の満州事変に始まった軍事優先の政治は終結し、平和が訪れました。

大戦中に、世界で数千万人が死亡したといわれています。アジア太平洋戦争だけでも日本軍の戦死者は約230万人、空襲や戦闘による民間人の死者約80万人が加わります。さらにアジアでは1,500万人が殺されたといわれています。軍の戦死者のうち実に60~70%以上が餓死や病死であり、いかに無謀な戦争で尊い命が失われてしまったのかわかります。

平和な日本に生まれ変わって70年、戦争の愚かさ、悲しさ、悔しさ、みじめさを体験した方々がどんどん減り、平和な今が当たり前になっています。

昨年2014年7月に政府は憲法の解釈を変更し、今年5月に戦争につながる法律案を一括して国会に上程しました。多くの憲法学者や内閣法制局長官経験者、さらには首相経験者など政府の中枢にいた人たちがまでが違憲と表明し、連日国会周辺や全国各地で若者・ママたちも参加してパレード・集会が開かれています。

この時期に、ご家族と平和について話し合ってみてはいかがでしょうか。できれば、戦争や戦後を体験されたおじいちゃん・おばあちゃんにも話を伺ってみてください。

8月15日は終戦の日。

社会福祉法人あおぞら理事長の井崎和夫医師にインタビューしました。

Q:終戦のときは?

A:14歳で、中学校3年生でした。

Q:学校へ通っていましたよね?

A:学校へは行かずに、「お国」のための勤労働員で網島にあった軍需工場で陸軍の無線機を毎日組み立てていました。

Q:空襲ではいかがでしたか?

A:5月24日に野毛山の家に焼夷弾が命中し家と植木が焼けました。真っ赤に燃えあがった桜の木を覚えています。そして5月29日の横浜大空襲で久保山にあった母の実家が油脂焼夷弾で燃え上がり、40歳の伯母と5歳・4歳のいとこが焼死し、古材を集めて茶毘に付しました。

Q:米軍の襲撃にあいましたか?

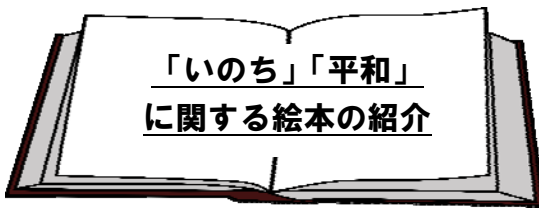
A:東海道線に乗っていたら、藤沢あたりでグラマン機の機銃掃射にあい、こわかった。

Q:終戦の日は何を思いましたか?

A:戦争が終わってほっとしました。これからは逃げなくても良い、燈火を点けても非国民と呼ばれないと思いました。

Q:これから日本は世界にどのようにしていくべきですか?

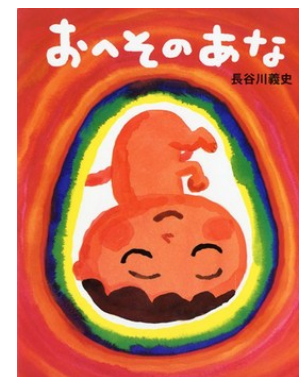
A:平和の大切さ、ありがたさをアピールしていかなければならないと思います。



「いのち」「平和」 に関する絵本の紹介



『ひろしまのピカ』
作：丸木 俊
小峰書店刊
広島原爆のお話です。
字を読まなくても、絵を見ただけで原爆の恐ろしさや恐怖を感じます。



『おへそのあな』
作：長谷川 義史
BL出版刊
あかちゃんの誕生のお話です。産まれる前の赤ちゃんが、もしかしたらおへそのあなからのぞいている!?



『戦火のなかの子どもたち』
作：岩崎ちひろ
岩崎書店刊
ベトナムで死んでいった子どもたち、生きぬいてきた子どもたちへの熱い思いをこめた異色の反戦絵本。